

平昌五輪は連日熱戦が繰り広げられていますが、「家で冬眠していたい」ほど寒さ厳しいこの頃。まだまだ春が待ち遠しい日々が続きそうです。現在会員登録数 2,585 人さま。次号は3月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 90

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第33回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成28年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。3月10日に予定しています第34回（平成29年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時：開催中～3月25日（日）＊ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

詳細は→ [http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Isoko's Talk

\*\*\*\*\*

『夏のルール』(RULES OF SUMMER) ショーン・タン/著 岸本佐知子/訳

あらすじ：「去年の夏、ぼくが学んだこと。」として、少年が兄との関係において学んだ16のルールが紹介されている。最初のルールは「赤い靴下を片方だけ干しっぱなしにしないこと」。物干し場に赤い靴下が片方だけ干されている絵が描かれているが、「ぼく」と兄は物干し場のある塀の影に隠れ、壁の向こうには巨大な赤い目のウサギが潜んでいる。このように、怖さや不気味さが感じられる油絵とルールが続き、「ぼく」は兄に小屋のようなものに閉じ込められるが、助け出される。

I：少し前に出版された絵本ですが、この絵本について語りたくなかったので選びました。

Y：ショーン・タンは1974年生まれのオーストラリア人で、マレーシア出身の中国系の移民2世です。アニメーション作家としても世界で高く評価されています。

I：彼の『アライバル』（河出書房新社 2011年）はアニメーション作家らしく、コマ割りの絵が精密で映像的です。そこには移民の歴史の物語が描かれていますが、想像上の生き物がユーモラスだったり、最後に家族が一つになったりするなど、移民の厳しい歴史の中にも希望が読み取れます。

Y：一方、『夏のルール』はコマ割りは使われていませんが、だだっ広い風景に現れる兄弟や鳥やウサギの怪物、カラスなどは、映画の印象深い一場面を見ている気持ちになります。私は自分の子ども時代の姉妹関係のさまざまな場面を思い出しました。

I：兄が弟を小屋のような所へ閉じ込めますが、その前にカラスから王冠を受け取り、弟を助けた後のシーンでは、雪の中に落ちている王冠の上にカラスが乗っています。強く印象に残りました。

Y：王冠はカラスの誘いに乗って王冠を手にした兄の横暴ぶりを象徴し、王冠が見捨てられたことで、兄弟の関係が変わったことがわかります。

I：ショーン・タンは自分のホームページでそれぞれの絵について深い自作分析をしています。（<http://www.shauntan.net/>）

Y：2011年に当財団がお招きした時も、絵本というメディアや自分の絵について徹底的に掘り下げて創作されている真摯な姿勢に尊敬の念を抱きました。

I：その講演会で、自分にとっての昔話的な怖いものは日本の特撮などに出てくる「カイジウ」だったとおっしゃったのを覚えています。この絵本の表紙にも「カイジウ」が出てきます。

\* 今回のゲストは当財団特別専門員の川内五十子さん（I）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第30回「銀河鉄道の夜」（その1）

牛乳を手に入れるまで

宮沢賢治自身は「銀河鉄道の夜」を「少年小説」と呼んでいます（歌稿B 第一葉余白の鉛筆によるメモ）、賢治童話のなかでも長い作品の一つです。この作品の内容を一言でいうとどうなるでしょうか。（こういうのを「最小の物語」＝ミニマル・ストーリーといいます。）いろいろな言い方があるに

ちがいありませんが、「ジョバンニが手に入らなかった牛乳を手に入れるまでの物語」というのはどうでしょう。こうしてみると、書き出しの第一章「午後の授業」で、先生が銀河を「乳の流れたあとだと云われたりしていた」と話したことを、すぐに思い出します。

ジョバンニは、お母さんの牛乳をとりながら銀河のお祭を見てくるといって出かけます。「では一時間半で帰ってくるよ。」といいながら暗い戸口を出たのです。牛乳屋では、「いま誰もいないでわかりません。」といわれます。「おっかさんが病気なんですから今晚でないと困るんです。」と重ねていうと、「ではもう少したってから来てください。」といわれたのです。

牛乳を待つあいだに、ジョバンニは、牧場のうしろの黒い丘へのぼっていきます。丘の頂の天気輪の柱の下に来て、つめたい草に体をなげたのです。そこからは、町の灯が見え、汽車の音が聞こえます。やがて、「銀河ステーション、銀河ステーション」という声がして、気がつくと、ジョバンニは、夜の軽便鉄道の車室の窓から外を見ていました。

これが作品の第六章で、第九章までつづく旅を終えて、ジョバンニが眼をひらくと、もとの丘の草の中でした。丘を走りおりて牛乳屋に行ったら、「今日はひるすぎうっかりしてこうしの柵をあけて置いたもんですから大将早速親牛のところへ行って半分ばかり吞んでしましましてね……」と笑っていわれたのです。

まだ熱い牛乳の瓶を手に入れたあとのジョバンニの世界は明るさを取り戻したかのようにも見え、あとでは、長く行方の知れなかったお父さんが帰ってくることもわかります。ところが、「こどもが水へ落ちたんですよ。」と町の人がいいます。おぼれたのは、先ほどまで銀河鉄道をいっしょに旅したカムパネルラで、友だちを助けようとして自分が水に落ちたというのでした。

(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『新編 銀河鉄道の夜』によりました。)

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 90

\*\*\*\*\*

その11 さまざまなご質問にお答えします(8) おはなし会について

質問：絵本の中に、わかりにくい言葉があったとき、どうすればいいですか。

子どもたちは、いつも「わかりにくい言葉」に囲まれて生活しています。ですので、ある意味では、全ての言葉がわからなくても、前後から類推したり、絵をみたり、筋が通っていれば、聞き飛ばすことはよくあります。特に年齢差の大きい子どもたちを対象とする場合は、幼い子どもがわかりにくいと感じる言葉があっても、特に説明等をせず、絵本を読むことがあります。わからない言葉が入っていることで、かえって子どもがその作品を特別に感じたり、魅力的に感じたりすることもあります。

とはいえ、その言葉が作品のキーとなる言葉であると事情が変わってきます。その場合は、まず、その絵本が集団の子どもたちに読むのにふさわしいかを

検討する必要があります。言葉の説明をしなければわからない絵本であれば、読まない方がいいという判断があります。

一方で、キーとなる言葉を少し言い換えさえすれば、対象年齢にふさわしい作品である場合、事前に説明しておくことができます。この場合は、簡潔であることが求められます。

読んでいる時に、子どもが言葉の意味について質問してきた時は、読み手がその子だけがわからないと思ったら「あとでね」と目や声で伝えて、絵本を読んだ後に説明する方法があります。子どもの反応からほぼ全員が理解しておらず、前に進むとおはなしから離れてしまうと感じた時は、途中であっても説明する方がいいでしょう。

絵本を読んでいる時は、なるべく他の言葉をはさまない方が世界が壊れませんが、楽しめなければ意味がありません。臨機応変に対応することが求められます。

\* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (9)」の予定です。  
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

兵庫県立歴史博物館で3月25日まで開催されている特別企画展「ふろくの楽しみ 明治～平成の子ども雑誌から」に行ってきました。

「ふろくの黄金期」、「ふろくあれこれ 明治から平成まで」の大きく2部に分け、明治以降の雑誌や新聞の付録約270点が展示されています。組み立て付録や別冊付録、お正月の付録、学習に役立つ付録、少女向けの付録など細かいテーマに分け、雑誌、作者や画家についても解説されていて、時代背景や歴史がわかるようになっています。

入ると、組み立てられた大型付録の複製が目飛び込んできます。高さ80cmもある「世界一高いエンパイヤ・ビルディングの大模型」や高いマストに糸が張り巡らされた「軍艦三笠の大模型」など、切り取る前の付録も一緒に展示されていて、パーツの細かさと数の多さに圧倒されます。これらは「少年倶楽部」の1932(昭和7)年の付録で、当時の編集長の加藤謙一が天才と呼んだ中村星果が考案したそうです。

「幼年倶楽部」は1926(大正15)年の創刊時から付録が重視されていたそうです。多田北鳥の描いた優しそうな顔をした七福神の「大たから船」が印象に残りました。「少女の友」の付録の組み立て舞台や詩集は、中原淳一や松本かつちの絵が上品で洋風のおしゃれな雰囲気です。

別冊付録にもいろいろありました。昭和の初め頃の、電車のしくみなどの雑学系のもの、少女向けのファッションを紹介したものや人形の作り方の本、松本かつちの「?(なぞ)のクローバー」という覆面をした少女が主人公のマンガなど、手にとって読んでみたくなりました。

これらの多くは、児童文化史研究者であった故入江正彦さんが収集された玩具・書籍・教育資料・生活用品・衣服など約11万点の「入江コレクション」からの展示だそうです。入江さんの児童文化に対する情熱を感じながら帰途につきました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 連続トークイベント 子どもの本のひみつ 第3回

「子どもの日常を描く視座」

トークゲスト：ひこ・田中（作家、評論家）／ 目黒 強（神戸大学教員）

日 時：3月21日（水・祝） 午後1時～3時

会 場：京都文教大学サテライトキャンパス伏見大手筋（京都市伏見区）

参加費：有料（資料代）

定 員：30人（当日受付先着順）

主 催：日本児童文学者協会 研究部

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『夏のルール』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.90 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は3月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

「日本は、義理チョコをやめよう。」バレンタインデーを前に某チョコメーカーが発した広告が話題を集めた。ごもつとも、円滑な人付き合いを重視する社会ゆえ、職場での残業から冠婚葬祭で包む額まで、日々暮らしの中に「義理」と「バランス」が判断基準の中央に鎮座します。

この際、事あるごとに「義理〇〇はやめよう。」と自分に問い直すのも悪くない。うん？ 義理がすたればこの世は闇だ…と昭和の流行歌。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---